

第4次有田市地域福祉活動計画



概要版

● 計画の基本理念 ●

『あがらが主役、あがらで創る、あがらのまち』

地域の皆さんと一緒に今後4年間をかけてめざしたいことをまとめています。
有田市をつくるのは、有田市で暮らす・働くひとり一人です。



表紙イラスト 絵本作家 みやもと かずあき

令和8年3月



社会福祉法人 有田市社会福祉協議会

第3次計画期間中、有田市の各地でいろんな世代の方が活動・交流してきました。(2022～2025年度)



概要版

2025年度

車いすユーザーによる
保田小学校授業



多様な立場の当事者の声を届ける活動を続けてきました。障がいのある当事者らが小中高の授業へ参画し、直接対話する時間をつくることができました。

2024年度

箕島高校での災害ボランティアセンター設置運営訓練



箕島高校の探究授業を担当し、災害時の取組を高校生を通して地域の方に知っていただくことにもチャレンジしました。

2024年度

防災有田みかん会議



防災プラットフォームとして、立場の違う方たちが「防災」を切り口に集まる場づくりを複数重ねてきました。

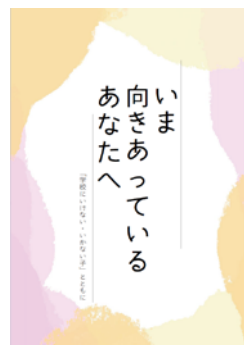
2025年度

糸我地区「ひばり」の様子



有田市内の各地区で、高齢者が運営する「地域ふれあいサロン」が広がり、見守りや介護予防、生きがいづくりにつながっています。

2023年度



『いま
向きあっている
あなたへ』

コロナ禍以降全国的に増加傾向にある不登校児生。有田市でもそんな子どもたちと向き合う親御さんがおられ、お互いに支え合いたいと奇数月に一度の集まりから、冊子の発行に至っています。

2024年度

登壇者の皆さん



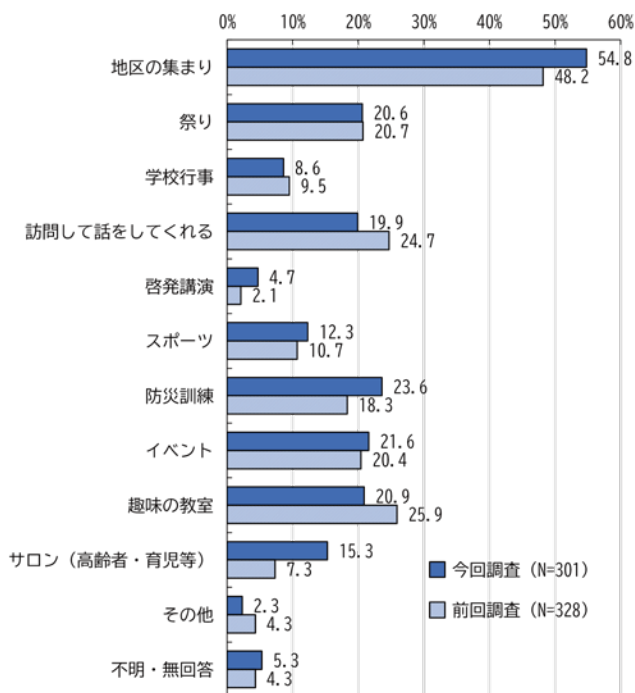
出会ってきた地域活動者たちの思いを広げたい、賛同者を増やして市民活動を活発にしたいという思いから、毎年2月にテーマを変えて開催しています。

第3次計画期間中に、有田市の中学校が1校に統合されました。統合前から生徒同士の関係構築と学びの均衡化を目的に総合的な学習の授業を合同で行い、社協がコーディネーターを担いました。

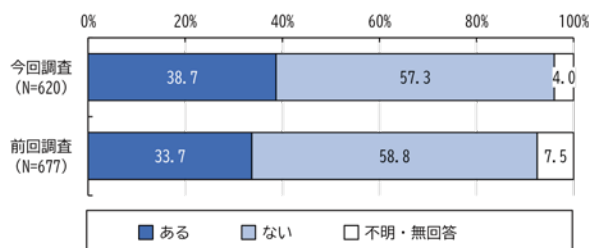
◎住民の皆さんはどんなまちにしたいんやろ？

第4次有田市地域福祉活動計画作成のために、有田市が実施した市民アンケート結果を一部ご紹介します。

市民アンケート 問5 参加しやすいつながりづくりの形は？



市民アンケート 問25 現在もしくは将来的にあなた自身が地域の人に手助けしてほしいと思うことはありますか。



市民アンケートでは、前回同様「地区の集まり」が参加しやすいという声が多く、また「防災訓練」や「サロン」と答えた方が増えています。

さらに、地域の人に手助けをしてほしいと思う方も若干ですが増加傾向にあり、つながりの強化が求められています。

◎小学校区活動計画

市民アンケートでも「地区の集まり」が参加しやすいという結果が出ていますが、第3次計画期間中、社協職員たちもさまざまな場面で小学校区としての帰属意識の強さや、活動の可能性を感じてきました。また、小さな有田市でも校区によって地域の事情はさまざまです。

そこで、第4次活動計画から、小学校区活動計画を住民のみなさんで考え、実践してもらえるように働きかけました。

箕島・初島・田鶴・保田小学校区が先に話し合いを実施し、残る港・宮原・糸我小学校区の皆さんとも考えていきます。



保田小学校区

「保田全地区サロン立ち上げと
クリーンアップ大作戦」

箕島小学校区

「多様な立場で避難行動を
考えてみよう！」

初島小学校区

チーム六桜花発！
「未来の初島のために
刻もう！夏の思い出と防災意識！」

田鶴小学校区

「各団体の交流をより活発に！
そして盆踊り復活へ」



地域みなさんが **い**だんの
くらしの
しあわせ



を感じられるまちづくりのために

みなさんが主役となることができることを
お手伝いするのが社協です！

社会福祉協議会は、地域福祉を推進する民間の団体です。社会福祉法に基づき設置されています。**社協**という略称で親しまれています。

理事・評議員は、住民代表や福祉関係団体・行政職員等により組織されています。

そのため、多分野多世代の方と、住民のみなさんの福祉向上を目指して運営しています。

また、全国のすべての都道府県市区町村社協があることで、幅広いネットワークをもっています。

例えば・・・

- | | | | |
|--|--------------------|---|---|
| <p>1 「どんなことが
課題 になっているのかな？」</p> | <p>を一緒に考えます。</p> | ➔ | <ul style="list-style-type: none"> ・学習会 ・ワークショップ |
| <p>2 「どうすれば
解決 できるのかな？」</p> | <p>を一緒に分析します。</p> | ➔ | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート実施 ・企画立案 |
| <p>3 「どうやって
行動 したらいいのかな？」</p> | <p>を一緒に組み立てます。</p> | ➔ | <ul style="list-style-type: none"> ・活動の立上げ支援 ・講演会開催 |
| <p>4 「こんな感じで
継続 していいのかな？」</p> | <p>を一緒に振り返ります。</p> | ➔ | <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り会 ・活動報告会等 |

普段どんな活動をしているのかは次のページとWebでチェック！



「地域福祉活動計画」とは

このように社協は、皆さんと一緒にまちづくりを進めています。

皆さんが地域における福祉をどのようによりよくしていくか、住民の皆さんのご意見をお聴きし、取り入れ、これからの目標として作成するのが「地域福祉活動計画」です。

有田市が策定する『地域福祉計画』と連携して進めていきます。

第4次地域福祉活動計画は、2026年度～2029年度の4年間の計画です。



結局 社協はなにをしてるの？

社協がお手伝いしている活動を一部ご紹介します。◆の番号は前ページ参照。

防災をテーマにした地域活動 2 3

箕島連合自治会では、令和5年6月の大雨被害の経験から、地域全体で避難行動を考える取組をされました。

社協は、次の活動を一緒に運営し、今後も住民の皆さんと一緒に新たな取組を計画していきます。

- ・多様な立場の方と取り組む逃げ地図ワークショップ（2回）
- ・防災まち歩き
- ・箕島地区避難訓練
- ・異世代活動報告会での活動発表



▲防災まち歩き後の意見出し

地域活動の人づくり 1 3

2025年度から、高齢者の活躍の場を創ろうと「おたやん」登録制度を開始しました。

有田市でお手伝いを求めている人や事業所をサポートする”おたすけする人（やん）”その名も「おたやん」です。

箕島地区の「AGALA」や山地地区の「さくらんぼ園」など、活動が少しずつ広がっています。

現役時代に培ったノウハウやたくさんの経験を地域のために活かしてくれています。

また、災害ボランティアセンター運営スタッフ養成研修を実施し、修了者が誕生しています。



◀おたやん
イメージキャラクター



▲AGALAでの
おたやん活動の様子

活動の立上げ支援 2 3 4

2024年度から開始した「小学校区これからみかん会議」により、具体的な活動が始まっています。

社会福祉協議会は、話し合いの場に入り、具体化するために必要な「人」「モノ」「情報」「資金」等について、情報提供やサポートに入っています。

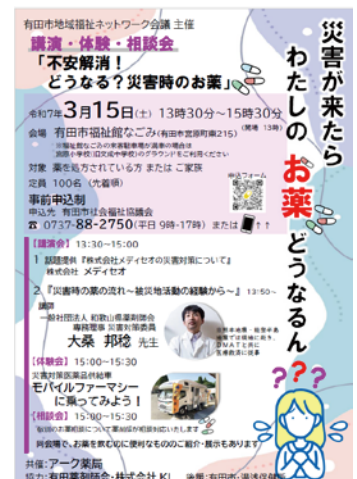
また、2026年に発足した「有田市女性防災士会」の立ち上げも学びの場の提供等を通じて支援しました。

新たな課題の当事者の場づくり/当事者団体の事務局 1 4

障害のある方が住民と一緒に話し合いをできる場をつくったり、当事者からの発信として、子どもたちに伝える学校授業のゲストティーチャーとしてコーディネートしました。

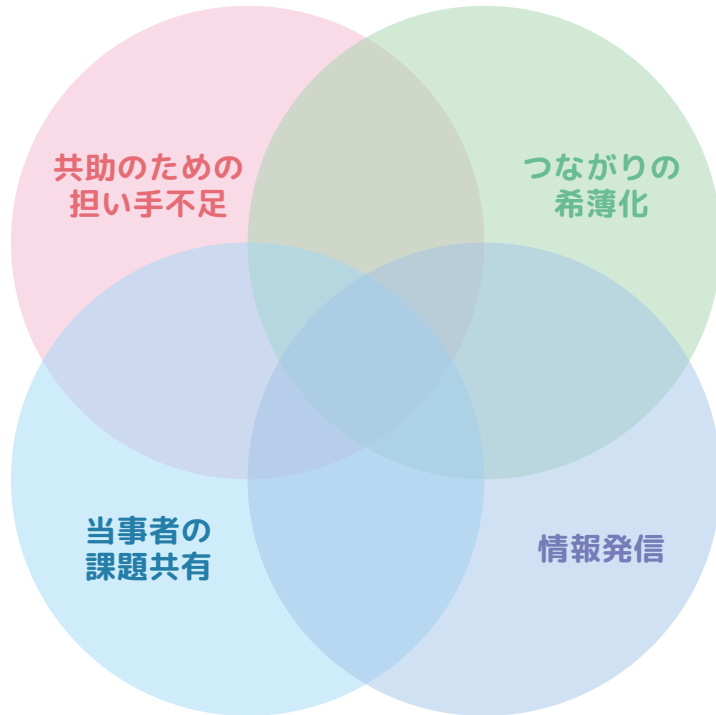
◎その他当事者等の支援、支援者からの課題共有として、次の団体や会議体の事務局をしています。

- ・身体障がい者連合会
- ・障害児者父母の会
- ・母子寡婦福祉連合会
- ・有田市地域福祉ネットワーク会議
- ・社会福祉法人連絡会





◎住民の皆さんと考えた地域生活課題



第3次計画の際に捉えた有田市の重点課題は4つ。
 「共助のための担い手不足」
 「つながりの希薄化」
 「当事者の課題共有」
 「情報発信」

これまでは、この4つを単体の課題と捉えて基本目標等に反映していましたが、これらは相互に影響しあって現状に至っているのではないかと活動を振り返って考えるようになりました。

そのため、課題を複合的に捉えて取り組めるように次のように考えました。

基本理念		あがらが主役 あがらでつくる あがらのまち			
基本目標	1 話し合う文化の醸成				
	2 弱さも見せられる地域づくり				
	3 多様な主体によるつながりづくり				
	4 高めるわが町プライド				
	5 災害にも強いまちづくり				
	6 共に生きる力を育む				
基本施策	◎ ○ ○ ○ ○ ○	◎	○	○	①住民が主役のまちづくり
	○ ◎ ○ ○ ○ ○	○	◎	○	②個人の尊厳を大切にできる地域づくり
	○ ○ ◎ ○ ○ ○	○	○	◎	③気かけ合える関係づくり
	○ ○ ○ ◎ ○ ○	○	○	◎	④小さな場づくり
	○ ○ ○ ◎ ○ ○	○	○	◎	⑤多様な主体の活躍の場づくり
	○ ○ ○ ○ ◎ ○	○	○	◎	⑥小学校区地域福祉活動の推進
	○ ○ ○ ○ ○ ◎	○	○	◎	⑦互助による防災・減災活動
	○ ○ ○ ○ ○ ◎	○	○	◎	⑧地域福祉推進のための福祉教育機能の活用



めざしたい有田市の姿

～住民の皆さんの思いを汲み取り考えました～

基本目標1 話し合う文化の醸成

お互いを理解し合うために、どんなことでも「話し合い」できることを有田市の文化にしたいと基本目標の一つ目に掲げています。

一対一の場面でも、集団の場面であっても「話し合い」をするためには、尊厳が遵守された安心できる環境で、立場や意見、価値観の違いが受け止められることが必要です。私たちがめざす「地域共生社会」は、正解を出すことが目標ではなく、こうした「話し合い」をさまざまな人同士が繰り返し行っていくことで実現につながると考えます。

基本目標2 弱さも見せられる地域づくり

悩みや困りごと、疾病や障害など他者には伝えにくいことがたくさんあります。ただ、それを自分ひとりで抱え込むことは自分自身を追い込むことにもつながりかねません。声に出してみると、案外同じように悩んでいる方もいることが分かり、その共感が他者を救うこともあります。

また、それが地域の課題と捉えられた時には、ひとりの声から社会の仕組みに働きかける可能性も生まれます。

他者や地域社会にとっても、同じように受け止めることでいつか自分自身も助けをもらうことが出来ると実感できるような地域づくりをめざしましょう。

基本目標3 多様な主体によるつながりづくり

小さな有田市の中にも、志をもって活動している方々や仲間づくりを楽しまれている方々もいます。ただ、そういった場につながっていない方の方が多いのが現状です。自分に合った居場所を見つけることが暮らしの質をよくなり、健康増進や介護予防、役割の獲得、将来像を描くことにもつながります。多種多様な価値観がある現代においては、多様な主体によるつながりづくりにより、住民一人ひとりの自己実現やウェルビーイングを高めましょう。





基本目標4 高めるわが町プライド

小学校の存在は、地域にとって大きく、卒業生をはじめ住民も帰属意識があると感じています。それぞれの小学校区がその実情やニーズにあった活動の中で住民同士で顔の見える関係を強くしていくことは地域福祉の土台となります。

また、有田市では中学校が1校になったこともあり、中学生になると各小学校区を単位とした学習は難しくなっています。こどもたちの将来のためにも、小学生までの間に、家族以外の地域の大人たちから学ぶ機会を多くつくり、自分の生まれ育った町に誇りと愛着を育む機会づくりをめざしましょう。

基本目標5 災害にも強いまちづくり

南海トラフ巨大地震の発生確率は最大のⅢランク（令和7（2025）年9月政府発表）とされており、また、線状降水帯等による水害も近年多発しています。海に面し、中央に有田川、山に囲まれたこの有田市の豊かな自然は、災害時には脅威となり、インフラは寸断されることを想定しておかなければなりません。

災害は日常の延長線にあるとも言われ、平時から防災意識を高め、お互いを気にかけて関係性をつくること、そうして住民が主体的に対策や訓練を行うことで災害時においても助け合いのできる有田市をめざしましょう。

また、災害時、誰かの支援がなければ避難できない方がいるという認識を多くの方がもつことで、誰も排除されることのない有田市をめざしたいものです。

基本目標6 共に生きる力を育む

他者との出会いから、自他の「違い」や「同じ」を見出し、他者と共に生きるためには自分自身は何ができるのか、私たちは社会のためにどうあるべきなのか。そうした問と行動が地域社会をよりよいものにしていきます。

福祉教育の機能を活かし、こどもたちや住民自身が自ら学び、内発的な動機付けによって行動変容につながるよう、すべての地域福祉の実践で福祉教育の充実をめざしましょう。

あらゆる場面で
多様な方々と一緒に
ふくしの種まきを！



目標のために、自分は、自分たちは何ができるか、かんがえてみませんか？

基本施策1 住民が主役のまちづくり

地域福祉において大切にしたいことは、住民自身が決定することです。そのためには、丁寧な話し合いを行い、個人ではなく、地域をどうしていくか関係する方々で決定するプロセスが必要になります。

- 1 まずは、自分の周りの方に気になっていることを伝えてみましょう。
- 2 地域で行われていることに関心を持ち参加してみましょう。
- 3 身の回りの方の様子を気かけたり、話を聞ける関係をつくりましょう。
- 4 自分自身や周りの方の困りごとを共有できる人を見つけましょう。

私だったらどんなことができるか書いてみましょう。

基本施策2 個人の尊厳を大切にできる地域づくり

困りごとを抱えた人が一人で抱え込まないようにするには、どんな悩みも受け止める寛容さが地域全体に求められます。人それぞれ困難に思うことには違いがあります。どの立場の思いにも耳を傾け、否定せず、その方の立場にたって考えるために、多様性や尊厳について理解を高めていく必要があります。

- 1 困りごとを自分だけで抱え込まないようにしましょう。
- 2 時には、じっくりと身近な人の思いを聴く時間をとってみましょう。
- 3 多様な価値観に触れる機会（研修・読書）に取り組んでみましょう。
- 4 福祉等の専門職は、当事者の尊厳を尊重し、代弁機能を意識しましょう。

私だったらどんなことができるか書いてみましょう。

基本施策3 気かけ合える関係づくり

住民一人ひとりの悩み事や困りごとを解消するためには、専門職の介入だけではなく、地域での見守りや支えが必要になります。

私たちの暮らしは、時間軸・空間軸共に連続したものです。それに対し、行政の制度やサービスは対象や期間を限定しているものがほとんどです。行政や専門職による公的制度の活用に加え、地域住民同士が長い目で気かけ合う関係性の構築や質の向上を進めていきます。

- 1 障害や疾病、社会課題などに関心を持ちましょう。
- 2 しんどさや困りごとを抱えた人が同じ地域で暮らしていることに目を向けてみましょう。
- 3 専門性や経験を活かして、個人の課題を地域の課題と捉える視点を持ちましょう。

私だったらどんなことができるか書いてみましょう。

まずできることは何だろう？ 今の私なら、あの人と一緒なら。

基本施策4 小さな場づくり

住民一人ひとりの暮らしは、その人にとって居心地のいい居場所があるかどうかはその暮らしの質に関係してくるのではないのでしょうか。“居場所”というのは、適度な距離感・そこでの役割・受け入れられているという安心感、そういった条件を必要とします。そう考えると、決して大きな場が必要なのではなく、小さな場が多様にある方が選択肢が増え、そこから広がる可能性を期待できます。

- 1 自分の趣味や特技を活かしてできることを探しませんか。
- 2 地域でどんな活動があるのか気にかけてみましょう。
- 3 住民自身が運営できる場づくりに挑戦しませんか。
- 4 法人や企業の強みを活かした地域貢献を考えましょう。

私だったらどんなことができるか書いてみましょう。

基本施策5 多様な主体の活躍の場づくり

地域の中で、あらゆる世代・所属の方々が活動できれば、地域全体への波及が期待できます。ボランティアや企業等で活動する方の熱意が循環することや、新たな協働活動が生まれることもあります。地域住民やボランティアはもちろんのこと、障害があっても、高齢であっても、こどもたちにも、また、企業などで働く人たちにとっても、地域・市民活動への参画の機会を創り出すことで、全員参加のまちづくりをめざします。

住民にとっても、参加の選択肢が増えることで自分自身の生きがいや居場所を得ることにもつながります。

- 1 地域で行われている活動（清掃活動・お祭り）に参加してみましょう。
- 2 隣近所や友人の困りごとなど、無理なく手助けできることに取り組みましょう。
- 3 コミュニティ・スクール等を通し、「地域で子育て」に参加しましょう。
- 4 自分たちの活動の共感者を増やし、仲間づくりを進めましょう。

私だったらどんなことができるか書いてみましょう。

基本施策6 小学校区地域福祉活動の推進

人口減少や高齢化の上昇により、町内会単位では運営が難しいことを小学校区を単位として活動できるようサポートします。また、小・中学校が取り組むコミュニティ・スクールとも連携し、地域全体でこどもたちを育てる環境を醸成していきます。小学校をハブにして、学校教育・社会教育が相互に高め合えるよう取り組んでいきます。

- 1 ご近所や周りの人に「最近どう？」と声をかけ合える関係性を心がけましょう。
- 2 地区の集まりに参加してみましょう。
- 3 小学校行事や授業のサポートに入ってみましょう。
- 4 地区の中にある団体や活動に興味をもって、参加してみましょう。

私だったらどんなことができるか書いてみましょう。

目標のために、自分は、自分たちは何ができるか、かんがえてみませんか？

基本施策7 互助による防災・減災

日々の地域福祉活動は、災害時にも活かされます。逆に言えば、普段やっていないこと、出来ないことは災害時にもできないと言われており、日頃の活動を大切にしなければなりません。

被災する人にとっては、災害の規模は関係なく、それによって失うものや諦めなければならないことが出てきます。行政の公的支援では手の届かない対応や、助け合いを出来る地域であることが望まれます。

- 1 自分の家や地区のハザードマップを正しく理解しましょう。
- 2 日頃から近所の方とあいさつをしたり、地域で避難について話をする機会をもちましょう。
- 3 1人で避難することが難しい方がいないか気にかけてみましょう。
- 4 避難訓練や避難所運営訓練に参加しましょう。

私だったらどんなことができるか書いてみましょう。

基本施策8 地域福祉推進のための福祉教育機能の活用

有田市社協のこれまでの地域福祉実践は、福祉教育機能を活かしてきました。

地域の中で、立場の違いや共通の課題や希望を知り、それによって自分たちが地域に対して主体的に活動していく、その行動変容を導くのが福祉教育です。

自他を知る機会、そこから何を気づき学び、社会をどう変えていくのか・まもっていくのかを住民自身が決定していけることが大切だと考えています。

- 1 自分たちの活動や目指していることを発信することを心がけましょう。
- 2 身の回りにいる人と地域情報について話し合う機会をもちましょう。
- 3 立場の違いを理解し、どうすれば共に生きる社会をつくれるのかを考える機会をもちましょう。

私だったらどんなことができるか書いてみましょう。

社会福祉協議会は住民の皆さんや団体・企業の活動をサポートします

◎気になることや困っていること、誰かのやってみたいについて話し合いをする場をつくります。また、その場で出た意見を見える化し、次のアクションにつながるように継続して関わります。

例えば・・・

これからみかん会議

防災有田みかん会議 など、みんなでかんがえる会議の企画運営

◎社協職員の専門性を活かした学びの場をつくり、さまざまな立場の当事者の声を社会に届けます。

例えば・・・

認知症サポーター養成講座・家族介護教室・ありだし社協だよりの発行 など

◎住民のみなさんが運営するイベントやサロンについて共に考え、これまでのノウハウを活かした支援をします。

例えば・・・

ボランティア活動・地域ふれあいサロンの運営支援・地区の防災活動 など

さあ！あなたも自分の地域のことを一緒に考えよう！

STEP 1

1 ほんまは教えないんやけど、有田市（うちの地区）の「ここええとこなんやで」ポイントは？

2 おもしろかった地域での思い出はどんなこと？

3 有田の人らのこんなところ、ずっと大事にしてほしんや！はどんなところ？

4 実は誰かに知ってほしいと思ってた私の、〇〇さんの、困りごと

STEP 2

1 有田市が、いろんな立場の人にとって暮らしやすくあるために、何があったらええんやろ？あなたが思うまちの姿はどんなんですか？

2 その実現のために、あなたは、誰と、どんなことが、できますか？

地区 お名前 (歳)

ご連絡先

あなたのプランを教えてください。

- ・このページの内容をメールに打ち込むか、このページをコピーして社協あてFAXしてください。社協だよりやSNSでご紹介させていただくことがあります。その場合はご連絡いたします。
- ・プランづくりをもっと深めたいという方や、いろんな人と話し合いたいという方は社協へご相談ください。一緒に場づくりを考えます。

電話 0737-88-2750

fax 0737-88-2033

Mail aridashi.shakyo@gmail.com